



おすすめ図書!

あらしのよるに
木村裕一 著
あべ弘士 絵



【左】絵本のシリーズ第1巻
【右】児童向け短編集

寒かった冬が過ぎ、萌え出づる春を迎えるころ。弥生3月、旧暦3月は晩春です。散りゆく桜の花びらに、往く春を愛でる「春惜月」(はるおしみづき)という言葉は、3月を象徴しているようです。

出会いと別れのシーズン、今月は新たな出会いに関連する本を紹介します。

【あらすじ】

荒れ狂った嵐の夜に、壊れかけた山小屋の中の暗闇で、風邪をひいたオオカミとヤギが出会います。互いに鼻が利かない二匹は、「喰うもの(オオカミ)」「喰われるもの(ヤギ)」とは気付かず、夜通し語り合い、意気投合し友達になります。お互いに何者か知らないまま。そのあとのシリーズではドキドキハラハラの展開が待っています。

当初は一冊で完結する予定でしたが、好評のためシリーズ化されました。

4月図書館カレンダー

2021年 4月Apr. 日 月 火 水 木 金 土

				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

【お知らせ】

新型コロナウイルス感染症の影響により、4月の児童館読み聞かせは中止です。

■休館日：毎週月曜日、図書整理日

○お話し：4月10日(日)

図書館ホームページでは、利用案内や図書検索など図書館の情報を掲載しています▶



☎ 図書館 ☎ 029-897-0647



光り輝く風返稲荷山古墳の出土品

市内には、500基を超える古墳が存在しています。今回紹介するのは宍倉地区に所在する「風返稲荷山古墳」と出土遺物です。

風返稲荷山古墳は、全長約78mの前方後円墳です。昭和39年の発掘調査により、金銅製の馬具や金銀に彩られた大刀が出土し、関東地方を代表する前方後円墳として知られるようになりました。

風返稲荷山古墳が築かれたのは、今からおおよそ1400年前。聖徳太子が推古天皇の摂政として政治に参画し冠位十二階や十七条の憲法など、さまざまな政治改革を推し進めていた時期です。また小野妹子が隋に派遣されたのもこの時期です。小野妹子は、608年の遣隋使により隋の使節裴世清を伴い帰国しました。この折、朝廷側が飾り馬(馬具で飾った馬)

75頭を用意し、海石榴市(つばいち)(現在の奈良県桜井市)にて使節を出迎えたという記載が日本書紀にあります。風返稲荷山古墳からは、金銅製の馬具が馬2頭分出土しています。風返稲荷山古墳の被葬者は、歴史的瞬間に立ち会ったのでしょうか。歴史ロマンが広がります。金で飾られた馬に跨り、輝く大刀をはいた大豪族の御霊は、宍倉地区の林中でひっそりと眠っています。

古墳には墓碑が建てられないので、被葬者の名前や来歴はなかなか明らかにすることができませんが、出土品からさまざまな考察を重ねていくことで、被葬者の実像に迫ることが可能となります。今後も研究は重ねられていきます。

風返稲荷山古墳出土品は、国指定文化財へ向けた活動を進めています。続報をお待ちください。

☎ 歴史博物館 ☎ 029-896-0017



風返稲荷山古墳出土品①



風返稲荷山古墳出土品②



あじさい 土曜名画座

日時 4月10日(日)午後2時 ※午後1時半受付・開場

定員 先着20人

場所 あじさい館[視聴覚室]

料金 100円

☎ 霞ヶ浦中地区公民館

☎ 029-897-0564

【鑑賞の注意点】 マスクは必ず着用してください。

まく子 4月は第2土曜日

出演 山崎光 草薨剛 須藤理彩 [上映時間108分]

【ストーリー】

小学5年生のサトシは、自分の体の変化に悩み、浮気性の父にも反感を抱いていた。ある日、不思議な少女・コズエが転校してくる。かけがえのない思春期を生きる葛藤と切ない初恋を軸に、小さな町のどこか不器用な人々を描く。

あじさい館ホール展示作品介绍

【4月は「出島写真クラブ」・「かすみがうら まゆクラフト研究会」の作品展示】

あじさい館では、市内の文化団体などが作成した絵画、写真、陶芸、工芸品の芸術作品などを月替わりで展示しています。ぜひ、ご覧ください。

▶期間 3月30日(日)～4月25日(日)

☎ 生涯学習課 ☎ 029-897-0564

投稿作品

千代田俳句同好会	飯沼礼子
水温むと菓子色のやはらかし	飯沼礼子
湖に日差しきらきら水温む	飯沼礼子
マスクなく笑へる春日待ちにけり	大西周
常陸野や野にも山にも春の色	加藤貞江
投げし餌に集まる鯉や水温む	神原清志
紫陽花俳句会	桜井愛子
お参りに母のまへゆく初天神	飯田功
暇という友を道連れ日向ぼこ	久保庭悦子
寒風に荒波砂鹿鹿島灘	田能幸雄
近寄って見る白鳥のたくまじき	萩原とし子
出島短歌会	薬師寺玲子
枝々にあまたの星をちりばめて桜が歌う魔校のララバイ	名倉親子
齢老いて別ればかりの人生にひ孫の誕生空も清やかに	仲谷香代子
玄関に蟬梅の香のみずみずと新春迎ふる母の住む家	岡田恭子
この朝に春いちちはやき桜草しばらく会えぬ友より届く	
投稿作品	
大橋で見る私の集落湖に浮んでいるように見える水運で学べたいにしえを偲ぶ	齊藤勝広
地球とはバランス原理で生きる星撰理崩壊して人は生きれない	近藤善康
テレビとは時に酷なり惚け度いと言う瓦礫の中の老安撮しぬ	菅谷味子
従として吹く寒風に梅の花この禍越えよと今年も咲けり	中島良平
春です椿の蕾ほころぶを孫も開花を楽しみにする	横井正子
投稿を手伝いするとりハビリのやさしき心美しき女	石塚清
水ぬるむ菱木の川にボラの群帰れる旅は下のふるさと	磯山徳治
朝まだき梵鐘耳に落葉焚く昇る炎は天界への道	沽野はつ子
成長を願ってかざるおひなさま	関和代
春霞昨日の山はあのあたり	竹村啓子
春一番空に競馬のはづれ券	いいだいを

投稿作品(俳句・短歌・川柳)を募集します。4月2日(日)までに情報広報課(〒300-0192 大和田562)へお願いします。※応募多数の場合は掲載されない場合がありますのでご了承ください。また、音声読み上げに対応するため、漢字にはふりがなの記載をお願いします。(内容を確認する場合がありますので、電話番号もご記載ください。)